

令和 8 年度 第 1 回 兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化推進協議会 企画委員会

令和 8 年 7 月 21 日（月） 15：00～17：00
ラッセホール 5 階 ハイビスカス

R7年度第2回企画委員会（R8.3.9）での議論

● 目指す姿と各プロジェクトの関係性の明確化

- ・これまで万博というテーマに向け各プロジェクトを重視していたため、基本方針（R5.3月策定）で定めた2040年頃の「目指す姿」と各プロジェクトへのつながりが曖昧であった
- ・万博終了を踏まえ、「目指す姿」を実現するための「重点テーマ」を設定し、各プロジェクトとのつながりを明確化することを事務局から提案

【提案した重点テーマ】

- ① 2030年を見据えた海外・他府県からの誘客促進
- ② 海上交通のあり方
- ③ 多様なライフスタイルの実現
- ④ 未利用地等の再整備による賑わい創出

各委員からいただいた意見

- ・ 「目指す姿」と「重点テーマ」の位置づけが不十分（酒井委員、織田澤委員）
- ・ 「最終的にどんなエリアを実現したいか」を明確化すべき（橋爪委員）
- ・ 2040年の「目指す姿」は変えるべきではない一方、重点テーマは2030年の目標として時間軸の整理が不可欠（石川委員）
- ・ 2030、2040年と段階を踏みながら戦略を構築することが必要であり、ベイエリア一体としてイメージや方向性を整理することが重要（赤澤委員、石川委員、上村委員、酒井委員、草刈委員）
- ・ 重点テーマを設定したうえで各プロジェクトがそのベクトルに沿っているかどうか（上村委員）

本日の議題

【議題 1】 2030年に向けた重点目標の設定

基本方針に掲げる2040年の「目指す姿」へと成長するためのステップとして、2030年に向けた重点目標の設定及び方向性について確認

【議題 2】 重点目標に沿ったプロジェクトの誘発・吸い上げ

重点目標に沿ったプロジェクトについて、今後、各主体の取組をどのように誘発し、吸い上げていくべきか

2030年に向けた重点目標の設定

兵庫県域の大阪湾バイエリア活性化基本方針P.10

時間軸を意識

- 万博開催(令和7(2025)年)までは、即効性がある人呼び込むプロジェクトを先行して実施する。
- 並行して、万博以降を見据えて実施までに協議調整など、期間を要するモノと投資を呼び込むプロジェクトを検討する。

令和5(2023)年

【2023年～2025年 大阪・関西万博開催まで】
万博を好機にバイエリアの魅力を世界にアピール

兵庫県域の大阪湾バイエリア活性化基本方針策定

- 短期的には、誘客・交流の活性化を軸に、万博会場と県内各地を結ぶ海上交通の充実や、地域間を周遊する観光コンテンツの造成、運河や臨海部を活用したイベントコンテンツの展開等のプロジェクトを展開します。
- 並行して、中長期的に実施する、モノや投資を呼び込むプロジェクトに着手します。

令和7(2025)年

大阪・関西万博開催

- 「People's Living Lab 未来の実験場」をコンセプトとした博覧会
- 国内外から2,820万人もの来場者が見込まれ、世界がこのバイエリアに注目

令和8(2026)年

【2026年以降～ 大阪・関西万博以降】
東西日本を結ぶ大交流圏の中心結節点としてグローバルに躍動

- 中長期的なプロジェクトを実施し、エリア全体の訴求力を高め、人・モノ・投資を持続的に呼び込みます。
- そのために、神戸空港の国際化、道路や港湾インフラの整備など、社会情勢に応じた土地利用計画や規制の見直しを実施し、民間のチャレンジ意欲を引き出します。
- 大阪湾のみならず、瀬戸内からも人・モノ・投資を呼び込みます。
- 将来的には、瀬戸内の東の玄関口として、リニア開通で形成されるスーパーメガリージョンの西の玄関口として、そして日本の東西を結ぶ結節点として、国内の求心性はもとより、グローバルに躍動します。

【目標年次：2040年頃】

阪神・淡路バイエリアの持続的な賑わい、活性化を実現

万博後のバイエリアを取り巻く潮流

1 バイエリアの景観・空間の変貌

- ・神戸ウォーターフロント再開発の進展
- ・ラグジュアリーホテルの立地
- ・「物流・工業空間」から「交流・滞在空間」へ

2 次世代モビリティの進展とアクセス向上

- ・神戸空港の国際化、Fly & Cruise
- ・空飛ぶクルマの社会実装に向けた動き
- ・MaaSや自動運転技術の進歩

3 「住む」が重視される価値観の変化

- ・転出超過の改善傾向
(自然環境と都市機能の両立、子育て環境、交通利便性)

4 関西広域における都市間競争の激化

- ・万博、I Rで大阪をゲートウェイとした広域周遊需要の拡大
- ・万博では経済効果の多くが大阪に集中

5 「Beyond SDGs」の地域づくりの必要性

- ・Well-being重視への価値観の変化

2030年頃(神戸空港国際定期便就航、大阪I R)に向けて

- 人呼び込む吸引力をどう高めるか、独自性をどう発揮するか
- 関西圏・瀬戸内エリアを含めたハブにできるか
- 「暮らす場所」としてどう磨くか
- ブランド力をどう高めるか
- 豊かさの新しい価値をどう創出するか

2030年に向けた重点目標の設定

2030年に向けた3つの「重点目標」を設定する

2030年に向けた重点目標

①交流・賑わい創出

産業の集積、充実した広域交通網といった地域の強みを活かし、国内外に開かれ、人が集い、滞在・交流が生まれるベイエリアを形成する。

→ポテンシャルのある資源の見える化、使える化

②回遊・アクセス強化

関西と瀬戸内を繋ぐ結節点にあるという強みを活かし、エリア内外をスムーズにつなぎ、人の流れを面的に広げる基盤を構築する。

→個別の強みを掛け合わせ、エリア全体の競争力を向上

③新たなライフスタイルの創出

都市機能と海辺空間が近接する特性を活かし、働く・遊ぶ・暮らすが融合した、新たなライフスタイルを創出する。

→機能だけでなく「体験価値」を生み出す地域へ

重点目標に沿ったプロジェクト（基本方針に記載のあるプロジェクト + 新規プロジェクト）を実施し、人を呼び込み、面的に広げ、滞在・定着を生む好循環を形成

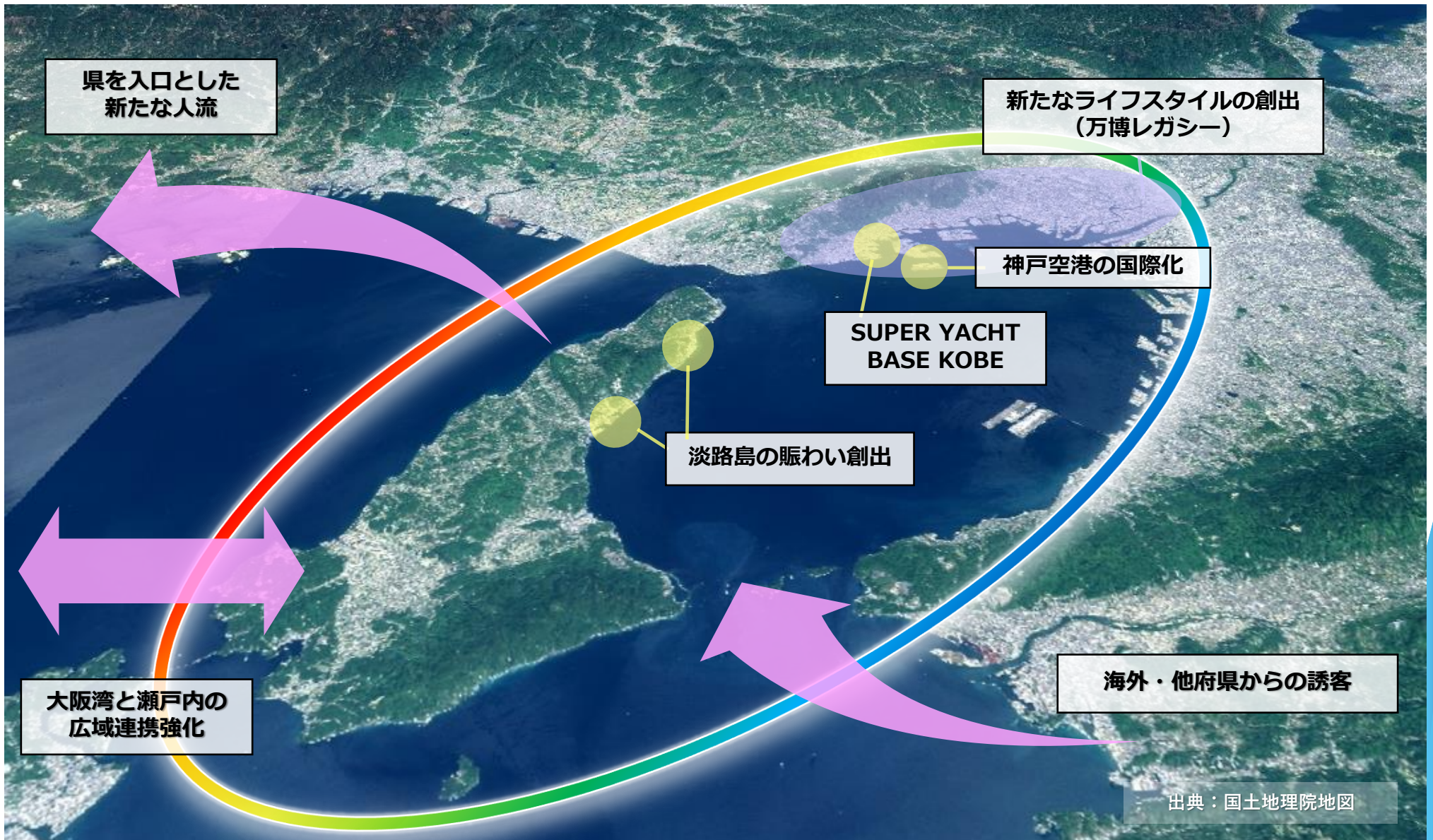
2040年のベイエリアが目指す姿（基本方針）

【キーワード】

世界から人・モノ・投資の呼び込み／経済・社会活動のイノベーション／
国際レベルでの競争力／ウェルビーイング（幸福・健康）／
サステイナブル（持続可能）／新たな価値、ライフスタイルを創造・発信

2030年に向けた重点目標の設定

人を呼び込み、面的に広げ、滞在・定着を生む好循環を形成



重点目標に関連する主なプロジェクト

- 「重点目標」に関連するプロジェクトを整理し、目標達成に向けた議論を段階的に進めていく

①交流・賑わい創出

産業の集積、充実した広域交通網といった地域の強みを活かし、国内外に開かれ、人が集い、滞在・交流が生まれるベイエリアの形成する

②回遊性・アクセスの強化

関西と瀬戸内を繋ぐ結節点にあるという強みを活かし、エリア内外をスムーズにつなぎ、人の流れを面的に広げる基盤を構築する

③新たなライフスタイルの創出

都市機能と海辺空間が近接する特性を活かし、働く・遊ぶ・暮らすが融合した、新たなライフスタイルを創出する

【神戸エリア】・神戸ウォーターフロント再開発

【神戸エリア】

- ・ 神戸空港国際化
- ・ 都心・三宮の再整備

【阪神エリア】

- ・ スーパーヨットの誘致

【淡路エリア】

- ・ 津名港周辺の未利用地の再整備による地域活性化
- ・ 淡路夢舞台の創造的再生

【全エリア】

- ・ 兵庫県産業立地推進本部の設置 など

【全エリア】

- ・ 兵庫を拠点とする新たな広域観光圏の創出
- ・ 海上交通の活性化（県内港ガイドブックの作成）
- ・ 空飛ぶクルマの社会実装に向けた取組

【淡路エリア】

- ・ 淡路島MaaS計画の推進 など

【全エリア】

- ・ ウェルネスツーリズムの推進
- ・ 多様なスポーツ施設の活用
- ・ マリンスポーツの認知度向上及び賑わいづくり
- ・ 兵庫版ラーケーションの研究
- ・ ひょうごフィールドパビリオンの展開
- ・ HYOGOアサ@プロジェクト など

新規プロジェクト
として**吸い上げ**



委員会での議論により
各主体の**取組を誘発**



※下線は基本方針に記載
のないプロジェクト

関連市・民間企業の取組

主な関連プロジェクトの概要

(神戸市) ウォーターフロント再開発

交流・
賑わい創出

回遊性・アクセ
スの強化

新たなライフ
スタイルの創出

●概要

- 神戸空港の国際化など、神戸市をとりまく社会情勢が大きく変化することから、今後、概ね10～15年間（2040年頃）にウォーターフロントエリアで取り組むべき施策の方針を示す「神戸ウォーターフロントグランドデザイン」を策定(2025.4策定)。
- 「移動・回遊」、「緑とオープンスペース」、「夜景・ナイトタイムエコノミー」、「民間投資によるまちづくり」という4つの戦略のもと、ウォーターフロント地区の魅力向上を推進



(ウォーターフロントの将来イメージ)



(スーパーヨットベース神戸(2027年春開業))



(ジーライオンアリーナ(2025年4月開業))

(神戸市) 神戸空港の国際化

交流・
賑わい創出

●概要

- 2030年4月の国際定期便就航をめざし、引き続き機能強化を推進

【参考】第12回関西3空港懇談会（2022.9月）の合意内容

	2025年	2030年前後
路線	国内線+国際チャーター便	国内線、国際線
発着枠	国内線120回	国内線120回+国際線40回

(神戸市) 都心・三宮の再整備

交流・
賑わい創出

●概要

- 神戸の玄関口である都心・三宮が魅力的な空間となるよう、市民、民間事業者と協働で再整備を推進
 - 新バスターミナル[Ⅰ期](2028年度開業)
 - 三宮デッキ(2027年度以降順次完成)
 - JR三宮新駅ビル南側広場空間(2029年度完成)
 - 市役所本庁舎2号館再整備(2029年度完成)
 - 新・神戸文化ホール(2028年6月頃開館)
 - 新三宮図書館(2028年2月頃開館) など

主な関連プロジェクトの概要

スーパーヨットの誘致

交流・
賑わい創出

●概要

- 県内でのスーパーヨット関連のイベント・事業の展開を契機として、大中小クルーズ船やスーパーヨットの誘致を図る

●関連するイベント・事業

- R8.5月「ASIA-PACIFIC SUPER YACHT SUMMIT 2026」開催（神戸市内にて開催）
- R9春頃「神戸港 SUPER YACHT BASE KOBE」開業 等

新西宮ヨットハーバー



SUPER YACHT BASE KOBE

津名港周辺の未利用地の再整備による地域活性化

交流・
賑わい創出

●概要

- 周辺地域が少子高齢化や空き家増加
- 定期航路が廃止され、交流人口も減少
→津名港及びその周辺の未利用地の有効活用を検討

●津名港の位置及び検討対象エリア



位置図

検討対象エリア

※現在、各種企業へプレサウンディングを実施

淡路夢舞台の創造的再生

交流・
賑わい創出

●概要

- 「淡路夢舞台創造的再生の基本方針（R7.12策定）」に基づき、民間の創意と活力を積極的に導入し、官民連携による持続可能な施設の運営を推進

【今後の運営方針】

施設名	今後の運営方針
ホテル・展望テラス、国際会議場	土地と建物を一体で民間に譲渡 ※令和8年3月公募開始、令和9年4月以降譲渡予定
百段苑・温室・野外劇場、灘山緑地、淡路交流の翼港	県保有の「公の施設」としての位置づけを維持し、公募により指定管理者を選定。※令和8年度順次公募、令和9年4月より管理開始



主な関連プロジェクトの概要

兵庫県産業立地推進本部の設置

交流・
賑わい創出

●概要

- 産業用地の不足により用地確保から企業立地までを機動的に推進する体制整備が急務となっている
- これを踏まえ、官民連携の上、全庁横断による総合調整を行い、産業立地の一層の促進を図り、雇用創出と地域経済への波及効果を最大化するため、新たに「兵庫県産業立地推進本部」を設置（第1回 R8.7.7開催）

体制

産業立地推進本部

本部長：知事

副本部長：副知事

構成員：関係各部、ひょうご産業活性化センター（部長級）等

官民連携

オブザーバー

宅建協会、銀行協会、関西電力、近畿経産局、市町（必要に応じて出席）

幹事会（具体の調整実施）

代表幹事：産業労働部次長
幹事：関係部局（次課長級）

事務局（地域産業立地課）

本部・幹事会の統括
市町のワンストップ窓口

（参考）産業立地条例に基づく立地支援（産業立地条例の改正（R5年度））

（1）支援内容の見直し

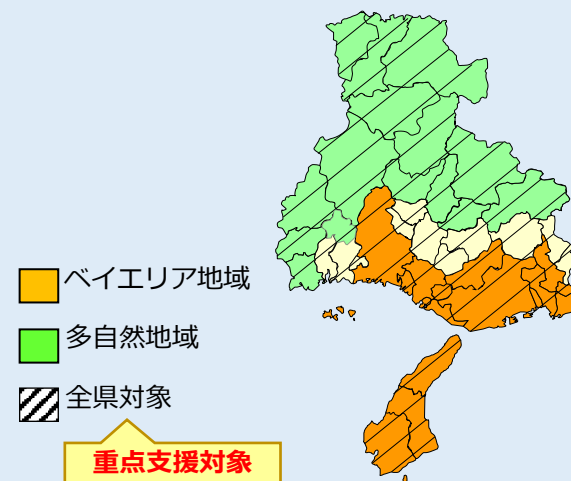
「成長産業の立地促進」「投資促進地域への産業集積」

- ① ベイエリア地域と多自然地域は、通常3%の設備補助率を5%に設定
- ② 成長産業分野については、設備補助率を全県7%、水素関連は10%

（2）支援対象施設の見直し

「高級ホテル立地による都市のブランド力向上」

- ・支援対象施設にMICE機能等を有する高級ホテルを追加（ベイエリア地域への立地に限定）



主な関連プロジェクトの概要

兵庫を拠点とする新たな広域観光圏の創出

回遊性・アクセシビリティの強化

●概要

- ・ 瀬戸内海と大阪湾を結ぶ結節点としての強みや、神戸空港の国際化により新たな人流が生まれていることを踏まえ、広域観光の拠点として、関西や瀬戸内を巡る新たな観光圏の形成を目指す

●施策の方向

- ・ 旅行者が広域に動く動機付けとなるアート、音楽、偉人などの特定テーマに対応した観光地やコンテンツと広域に連携し、発信
- ・ 県域をまたいで形成する個々のエリアを活かし、広域周遊ルートを開発・発信
- ・ 関西観光本部やせとうちDMOとの連携 など

〔瀬戸内地域と兵庫の連携ポテンシャル〕



海上交通の活性化

回遊性・アクセシビリティの強化

●概要

- ・ 関西と瀬戸内を結ぶ結節点としての地理的優位性を活かし、航路の充実や利便性向上を図ることで、海上交通のさらなる活性化を推進

●R8年度の主な取組（予定）

- ・ 県内港ガイドブック「ひょうご港のガイド（仮称）」の作成

空飛ぶクルマの社会実装に向けた取組

回遊性・アクセシビリティの強化

●概要

- ・ 豊富な観光資源など高いポテンシャルを持つベイエリアにおいて、「空飛ぶクルマ」の早期実装を官民連携で推進

●R8年度の主な取組（予定）

- ・ 空飛ぶクルマの早期実装を目指し、「実証等の支援」から「事業化準備等の支援」へ段階を進め、県内実装に直結する取組を支援
- ・ 民間事業者の参入意欲の高い地域において、関係者と重点的・戦略的な検討を進めるため、「地域分科会」を設置し、具体的な議論を深める

淡路島MaaS計画の推進

回遊性・アクセシビリティの強化

●概要

- ・ バス乗り場の機能強化、バスの機能強化、公共交通乗換検索サイト(buSmo)の機能強化に計画的に取り組み、関西～淡路島～四国間のストレスフリーな移動利便性の向上、島内二次交通の充実を推進

主な関連プロジェクトの概要

ウェルネスツーリズムの推進

新たなライフスタイルの創出

●概要

- 多自然地域と都市部が近接する本県の立地や、兵庫ならではの体験を求めるモダンラグジュアリー層が好む上質なコンテンツを活かしたウェルネスツーリズムを推進



潮彩きらら祥吉



西山酒造場



世界一の朝食
(神戸北野ホテル)

多様なスポーツ施設の活用等

新たなライフスタイルの創出

●概要

- マリンスポーツが楽しめる海洋体育館やゴルフ場など多彩なスポーツ施設を活用し、日常にアクティブで豊かな時間を取り入れる新たなライフスタイルを創出するとともに賑わいを創出



マリンスポーツ体験会
(県立海洋体育館)

ひょうごフィールドパビリオンの展開

新たなライフスタイルの創出

●概要

- 「ひょうごフィールドパビリオン」を、引き続き全県で展開。各地域に住む人々が、自らの取り組みを再評価し、次代を担う人材を育み、兵庫で暮らすこと、生きることの誇りへとつなげる



ラーケーションの研究

新たなライフスタイルの創出

●概要

- 「learning（学ぶ）」と「vacation（休暇）」を掛け合わせた制度
- 児童生徒が平日に学校を休み、保護者等とともに、体験・探求学習を行うこと

●期待できる効果

- 製造業や観光関連産業等の土日勤務の家庭にとって、家族で過ごす時間の確保が可能
- これまでの学校教育に捉われない自由な発想による学びや、平日にしかできない体験学習が可能
- 行き先である観光地、施設等の平日利用促進により、混雑緩和による旅行者満足度が向上

⇒教育・休み方改革・観光振興等の多角的な効果が
見込まれ、地域住民のウェルビーイング向上に寄与

●自治体の導入状況

- 都道府県単位では R5.9月に愛知県（名古屋市除く）が全国初導入。続けて、茨城県、山口県、熊本県、徳島県が導入済み
- 現状、兵庫県内市町で導入はされていない

HYOGOアサ@プロジェクト

新たなライフスタイルの創出

●概要

- 朝食の欠食問題、早寝早起き・良質な睡眠等の生活習慣改善のきっかけづくりや、県内誘客の増加を目指した朝の体験づくり等、パートナー企業と連携した取組を実施



2030年のベイエリア像実現に向けた共通基盤の構築 (=産学官連携の枠組みづくり)

- これまでの取組は、大阪・関西万博に向けて各プロジェクトが個別に進められてきたこともあり、ベイエリア全体として目指す将来像や方向性について、さらなる共有の余地がある

産・官・学の交流会やシンポジウムの開催などネットワーク形成の場を検討

○方向性の共有と進捗の見える化
○新たな事業創出の土壌形成

○主体間の連携強化



R 8 年度の企画委員会スケジュール

R 8 年 7 月 2 1 日

○第 1 回企画委員会

- ・ 2030年までの重点目標に関して
- ・ せとうちクルーズ戦略（基本構想）について
- ・ 産業立地に関する取組

R 8 年 9 ～ 1 1 月頃

○第 2 回企画委員会（現地視察及び意見交換）

【候補地】

- ・ 津名港：未利用地の再整備にかかるプレサウンディング状況等の確認

R 8 年 2 ～ 3 月頃

○第 3 回企画委員会

- ・ R 8 年度の各プロジェクトの進捗・結果報告
- ・ R 9 年度の各プロジェクトの計画
- ・ R 9 年度の企画委員会の進め方 など

2040年頃の「目指す姿」の再確認

● 基本方針の「目指す姿」（基本方針P.3より抜粋）

阪神・淡路ベイエリア・アーク構想 ～ ダイナミック ベイ プロジェクト ～

2025年大阪・関西万博開催、2030年前後の神戸空港国際化等のインパクトを見据えつつ、阪神・淡路ベイエリアの将来像と、ベイエリア活性化に向けた多様な主体による取組の基本的な方向性を示す長期構想を策定する。



阪神・淡路ベイエリア・アーク構想 イメージ図

【阪神・淡路ベイエリア・アーク構想について】

- ◆阪神・淡路ベイエリアを『アーク(フランス語arc-en-ciel:七色の虹、英語ark:弧)と位置づけ、エリア内の7市の連携をイメージ。
- ◆大阪広域ベイエリアの将来像「クレセントリンク・おおさかベイ」とも連携し、アークとクレセントでベイエリアを成長エンジンのコアと位置づけ、ベイエリア全体の魅力を高めていく。
- ◆阪神・淡路ベイエリアにとどまらず、本方針に基づくプロジェクト実施を通じて、**ベイエリアと県内各地や大阪湾・瀬戸内を結び、さらなる広域連携を推し進めていく。**

目指す姿

- ◆ 世界から人・モノ・投資を呼び込み、ものづくり産業の革新を促すとともに、経済・社会活動のイノベーションを創出し、新たな産業やビジネスモデルが立ち上がる**創造的なエリア**として、**国際レベルでの競争力を高める。**
- ◆ また、社会、経済、環境、いのち(身体、精神)の豊かさが共存するウェルビーイング(幸福・健康)でサステナブル(持続可能)なエリアとして、**新たな価値、ライフスタイルを創造・発信する。**
- ◆ こうした変革は、産学公民が目標を共有し、協働して取り組むことで生み出され、さらに**新たな資源を呼び込んで加速する。**また、阪神・淡路ベイエリアを起点に、県内各地はもとより、**関西・瀬戸内などの地域を広く巻き込みながら連鎖的かつダイナミックに展開される。**

各地域の目指す姿

ベイエリアには個性と強みを持つ地域が連担する。各地域がその強みを活かすとともに、**相互に補完、連携**することで、圏域全体の新たな価値や魅力、卓越した総合力の創出をめざす。

神戸エリア

チャレンジエリア

－新たなチャレンジを促しイノベーションを創出する－

神戸空港の国際化も見据えながら、ウォーターフロント再開発等の先導的プロジェクトを基盤に、民間の活力を呼びこみ、**阪神・淡路ベイエリアの活性化を牽引する成長エンジンのコア**とする。**多様なプレーヤーが滞在、交流し、常に新たな挑戦が沸き上がるエリアを創出する。**

阪神エリア

万博のレガシーを実装するエリア

－次世代へと繋ぐ新たなライフスタイルを創造する－

生活と産業、都市と自然等、多様な要素が近接・混在する環境や、民間中心で独自の文化を醸成してきた風土、豊かな教育環境等を活かして、**新たなライフスタイル・エリアを創造する。**大阪・関西万博が掲げる**「いのち輝く未来社会」を実装し、レガシーとして次世代へと引き継いでいく。**

淡路エリア

生命あふれる原点回帰エリア

－国内外からの人の流れと交流を生み出す－

神戸大都市圏への近接性、豊かな食や自然、地域に息づく歴史・文化を活かして、**国内外からの人の流れと交流を生み出す。**人とのふれあい、本物の体験等を通じて、**暮らしの本質を思い出し、原点へと立ち返る場や機会を創出する。**